

ワクチンで感染症を予防しましょう

感染対策チーム 石濱 晴美

最近、日本で風しんの流行が問題になっています。風しんは、十分な免疫を持たない女性が妊娠中（特に妊娠初期）に感染すると、胎児に悪影響（先天性風しん症候群）があるため、妊娠前に十分な免疫を持つことが重要です。



公費による
風しんワクチンを
接種した回数

平成2年4月2日以降に生まれた人	2回
昭和54年4月2日から平成2年4月1日に生まれた男性 昭和37年4月2日から平成2年4月1日に生まれた女性	1回
昭和54年4月1日以前に生まれた男性 昭和37年4月1日以前に生まれた女性	0回

かつて、風しんは子供の頃に感染し、自然に免疫がつくのが通常でした。しかし現在は、ワクチン接種による予防が基本となっています。風しんワクチンは2回接種すると十分な免疫がつくと言われていますが、生まれた年代や性別により接種回数が異なります。

現在、予防接種で風しんに感染する人が減り、日常生活で風しんウイルスにさらされる機会が減少しました。そのため、幼少時に1回接種のみの人は時間の経過とともに免疫が徐々に弱まっています。このため最近の流行は、ワクチンを1回接種または全く接種したことがない世代、特に30～50代の男性を中心に広がっています。

この対策として昭和37年4月2日から昭和54年4月1日生まれの男性、妊娠を希望している女性とその同居家族、妊婦の同居家族を対象とした、風しんの免疫の有無を確認するための抗体検査を無料で受けることができます。検査で抗体が十分でないことが分かった場合は、公費で予防接種を受けられます（自治体ごとに風しん対策の補助の有無や補助の額など異なります）

風しん以外にもワクチンで予防できる病気があります。ワクチンで予防出来る病気のことをVPD（Vaccine Preventable Diseases）と言い、インフルエンザや肺炎球菌による肺炎など、現在20種類以上あります。予防接種により、受けた人はその感染症から守られています（個人防衛）。さらに多くの人々が予防接種を受けることにより社会全体からその感染症が減り、結果的に予防接種を受けていない人達も感染症から守られることとなります（社会防衛）。また予防接種にかかる費用は、接種せずに病気にかかった時の検査や治療費に比べ、安くすむことが分かっています。

当院では、感染症にかかった職員が患者様にうつすことがないように、予防接種による感染対策を行っています。



ワクチンで防げる主な病気

- ☆麻しん（はしか） ☆ムンプス（おたふくかぜ） ☆結核
- ☆水痘（みずぼうそう） ☆日本脳炎 ☆破傷風 ☆百日咳
- ☆風しん（三日ばしか） ☆ポリオ
- ☆肺炎球菌感染症（肺炎）
- ☆ヒブ感染 ☆ロタウイルス胃腸炎 ☆A型肝炎
- ☆B型肝炎 ☆黄熱病 ☆狂犬病 ☆子宮頸がん ☆インフルエンザ など

